

## 再集計版

公開情報年報、公開情報四半期報の「主要菌の抗菌薬感受性」において、一部の菌種で集計プログラムに不具合があり、該当箇所の再集計を行いました。

### <不具合の詳細>

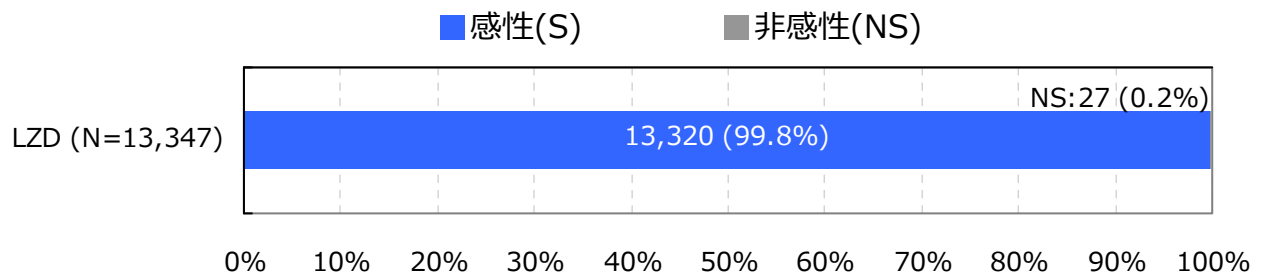
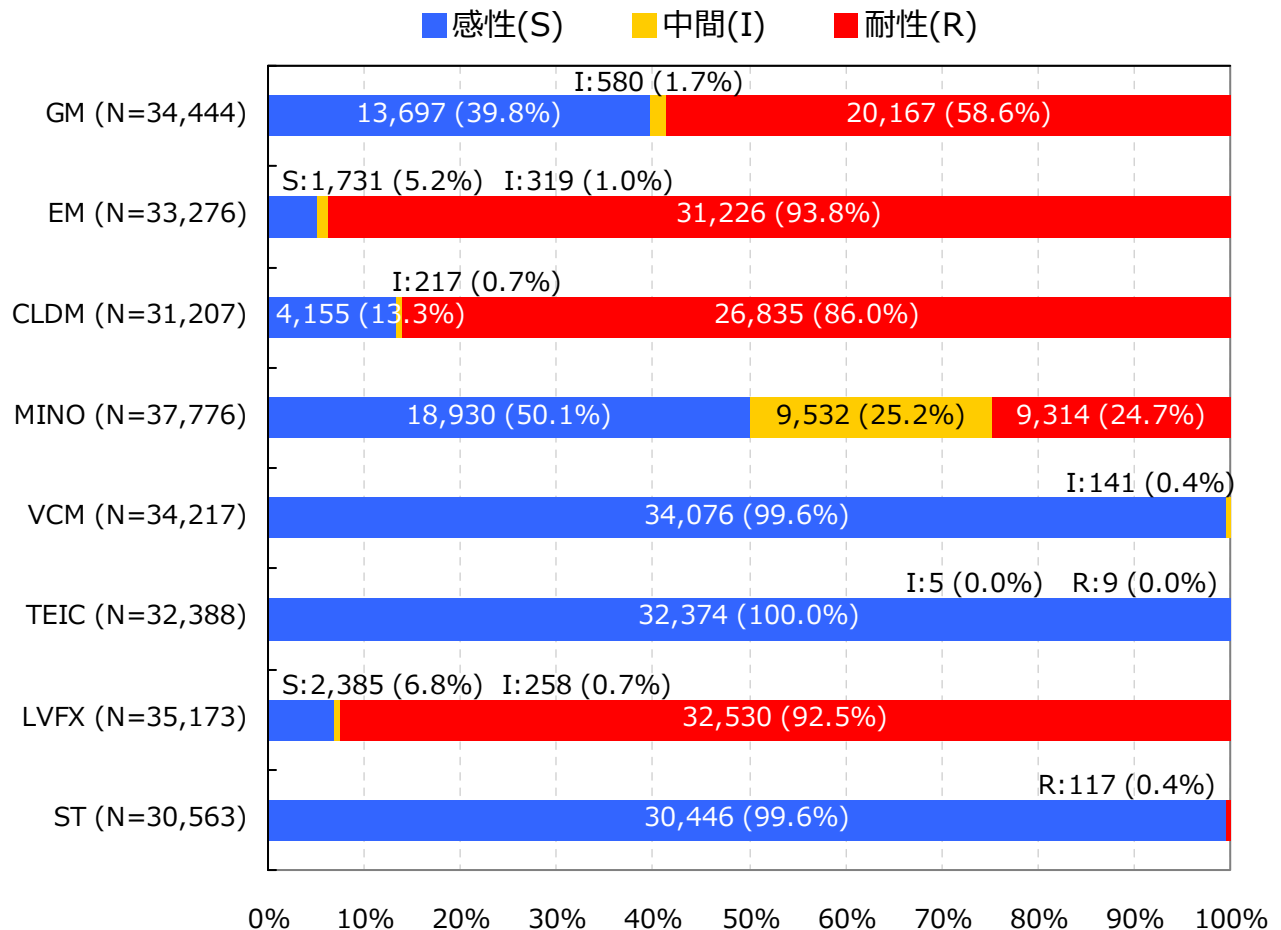
- CLSI2007 (M100-S17) で、[S]の基準値のみが設定され[I]や [R]基準値が設定されていない菌種と抗菌薬において、[S]以外と判定された菌株が集計対象から除外されていました。その結果、[S]と判定された検体だけで集計が行われたために抗菌薬感受性割合の[S]が 100%になっていました。
- 下記 6 菌種-抗菌薬について、[S]以外の菌株を「非感性」として集計対象に追加し、再集計を行いました。なお、集計時期の違いから、2007年7月～12月年報（2010年10月19日掲載）と再集計版では、集計対象医療機関数等が異なります。
- 再集計を行った「菌種」－「抗菌薬」の組み合わせ
  - Staphylococcus aureus* (MRSA)・・・LZD
  - Streptococcus pneumoniae*・・・VCM
  - Streptococcus pyogenes*・・・PCG、ABPC、CTX
  - Streptococcus agalactiae*・・・PCG、ABPC、CTX
  - Haemophilus influenzae*・・・CTX、MEPM、LVFX
  - Penicillin resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP)・・・VCM

注) 2010年以降は、年報集計時に国内で過去に報告が無い薬剤耐性菌（特殊な耐性を示す菌：カテゴリーA）について、その内容を確認する精度管理作業を実施しております。これまでに報告された該当データはすべて誤りである事が確認されており、集計時には修正されております。

ただしこの精度管理作業を経ずに集計された 2009年以前の年報には、*Streptococcus pneumoniae* (PRSPを含む) のVCM非感性(NS) および *Streptococcus pyogenes* のPCG、ABPC非感性(NS) の報告を認めます。

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



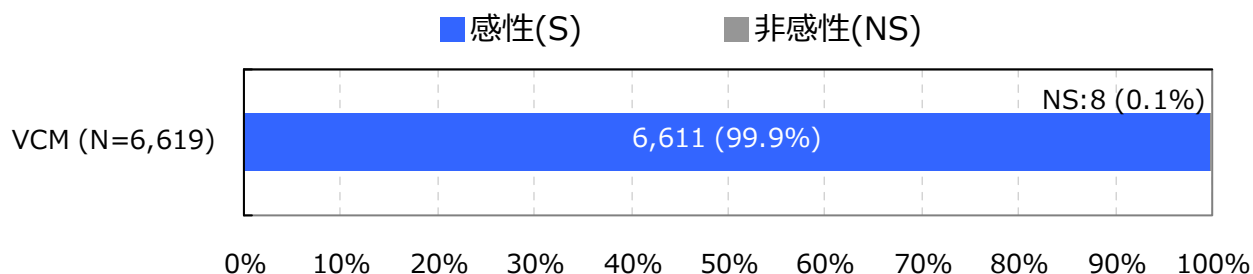
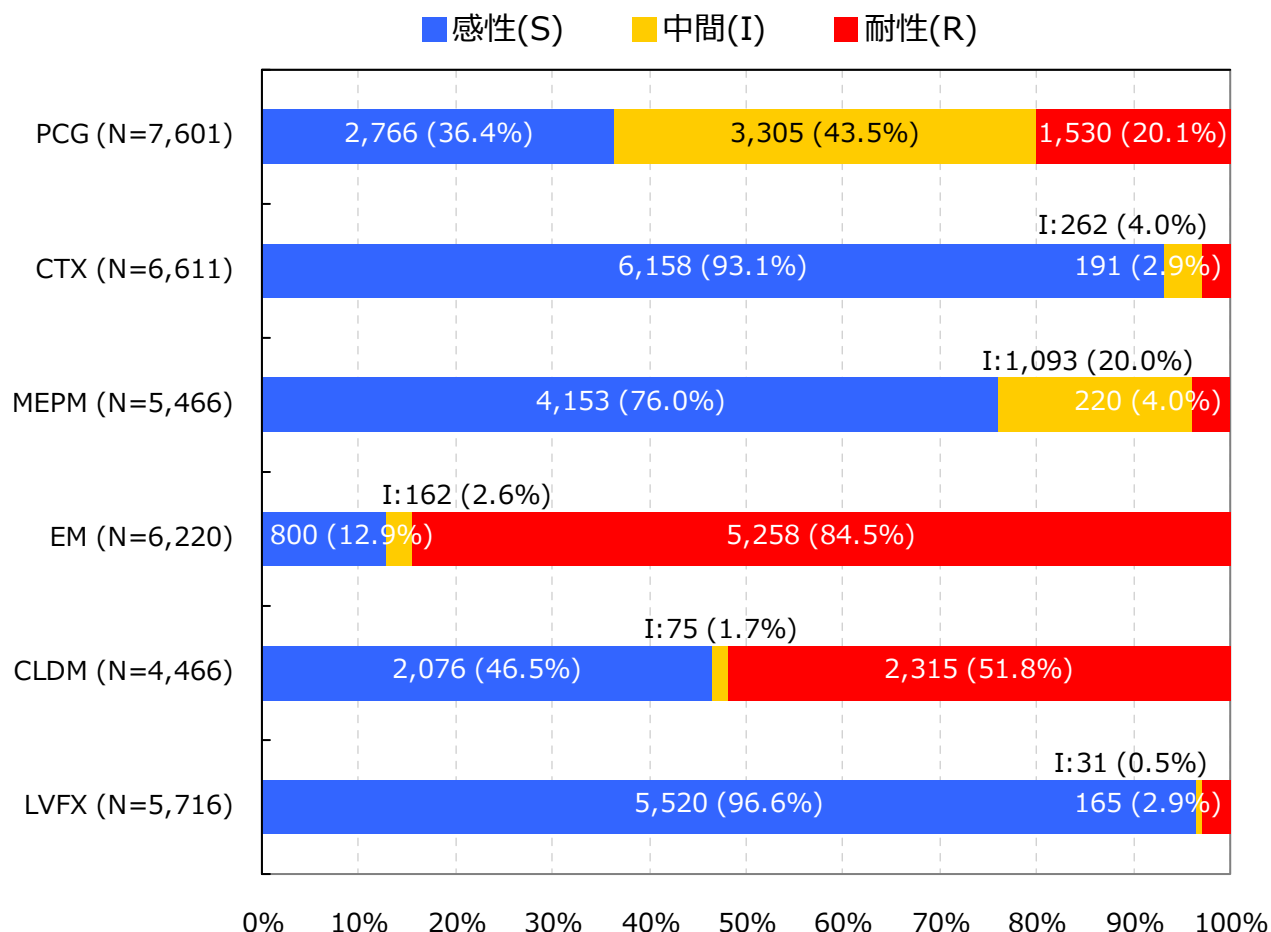
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

†菌名コード：1303と報告された菌および菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Streptococcus pneumoniae* †



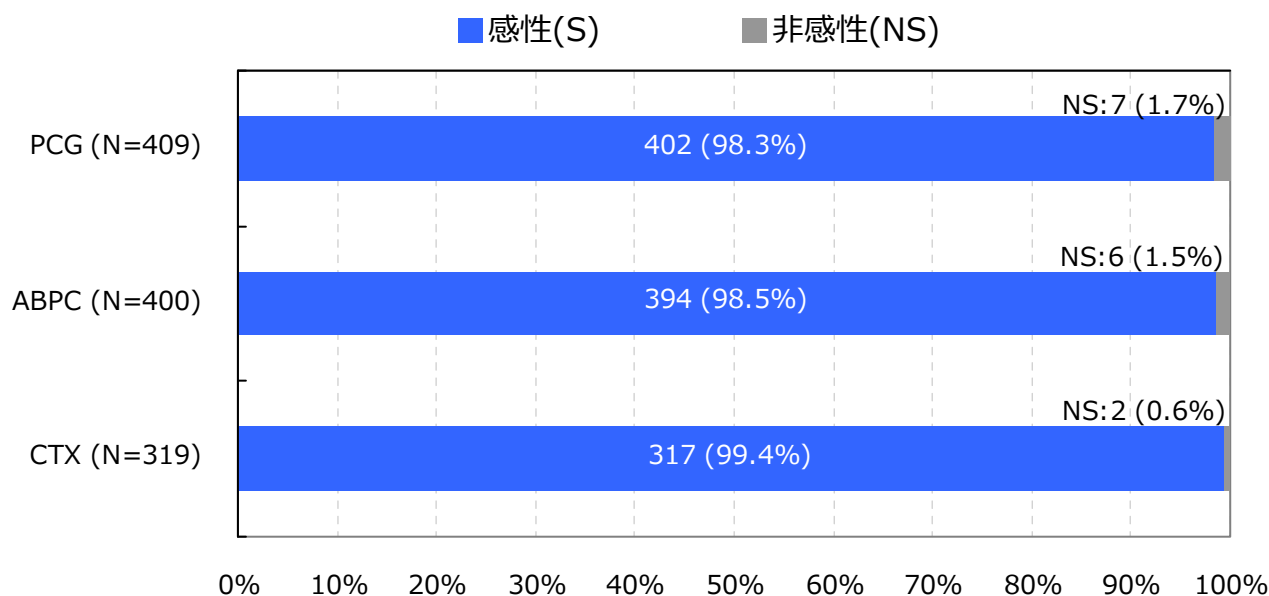
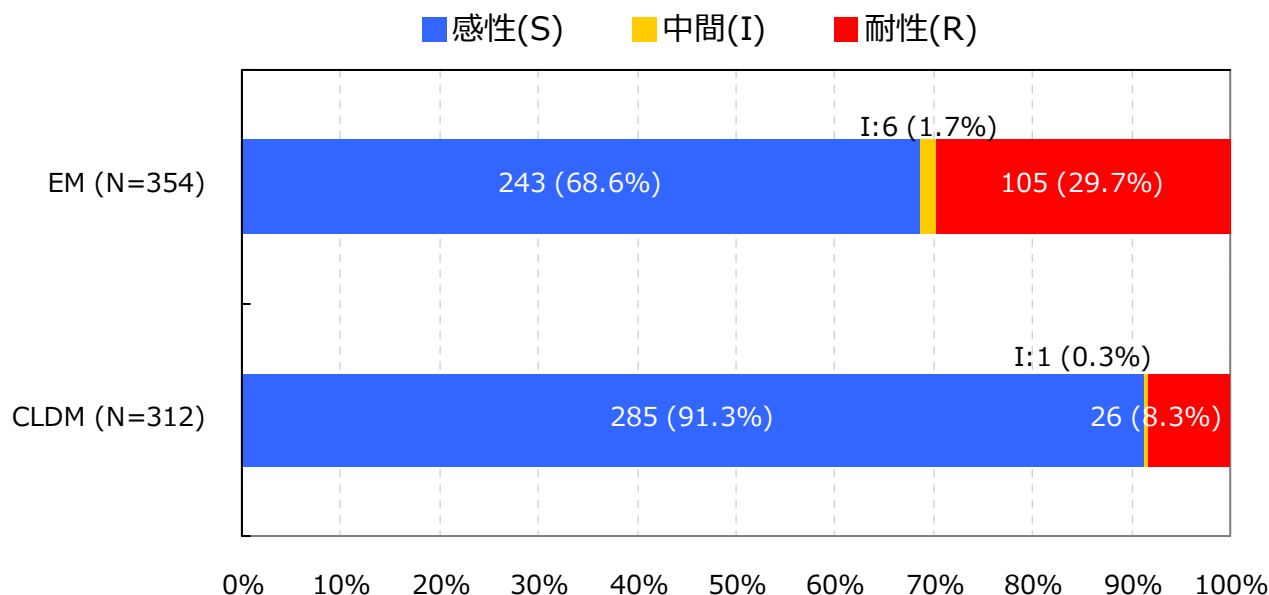
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1131と報告された菌

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

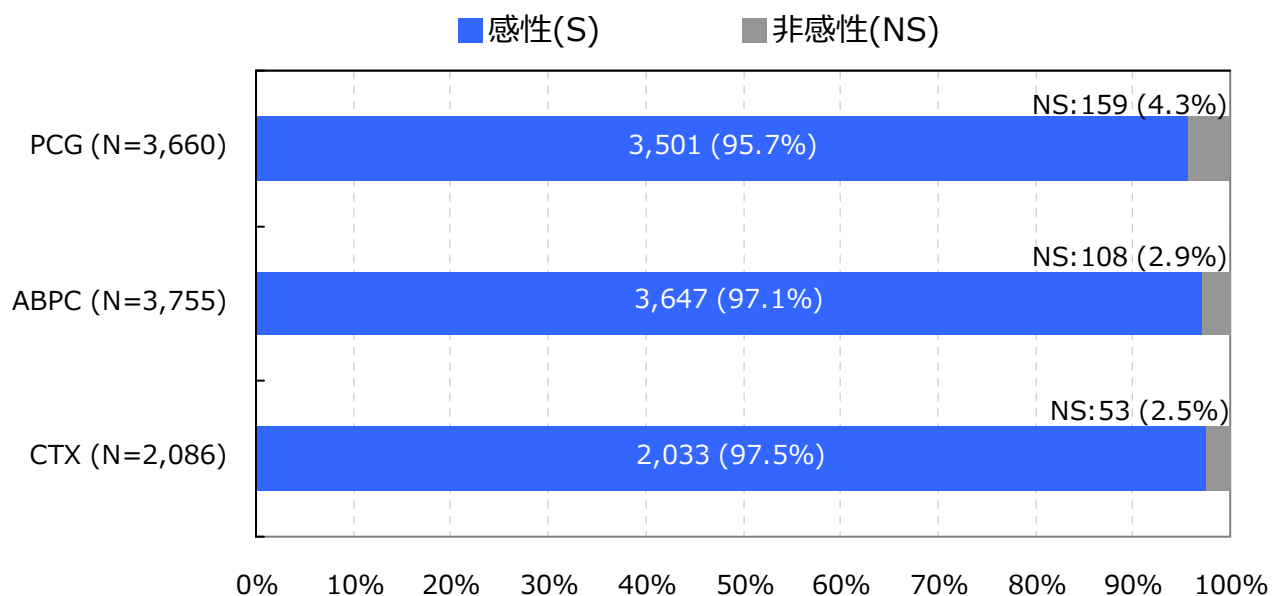
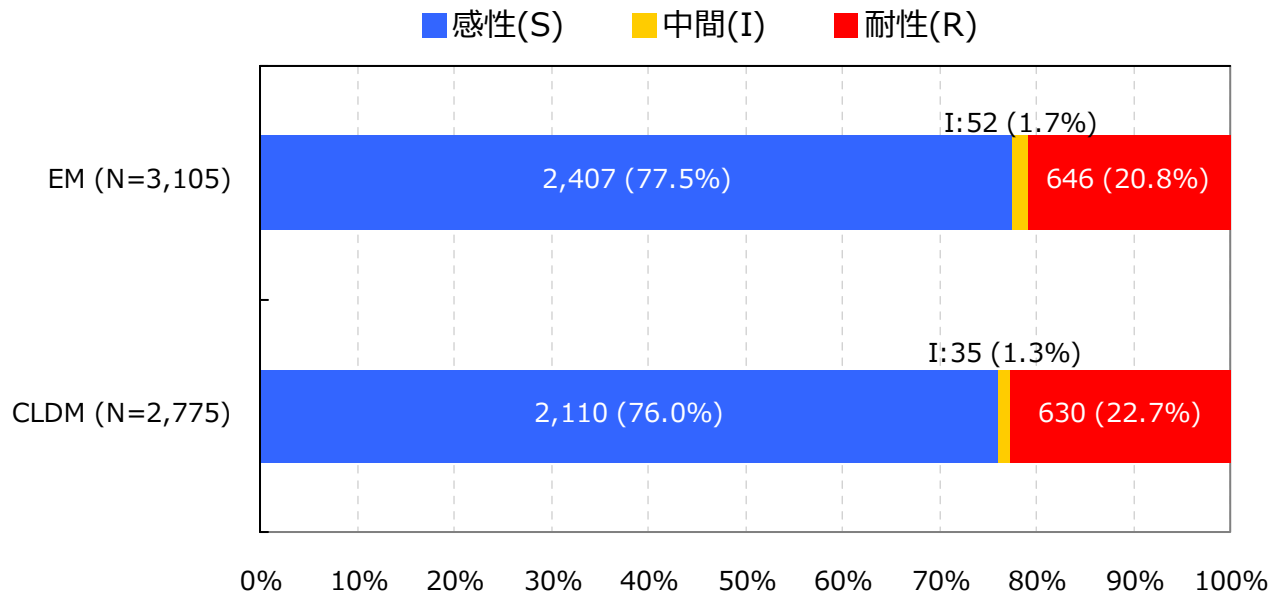
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1111と報告された菌

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Streptococcus agalactiae* †



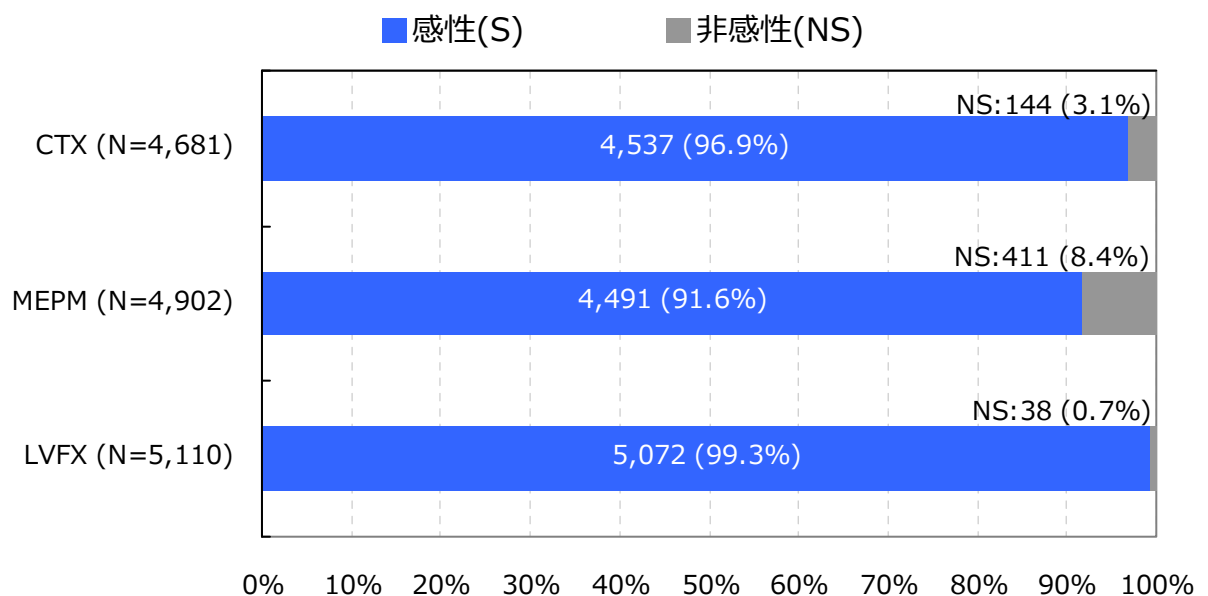
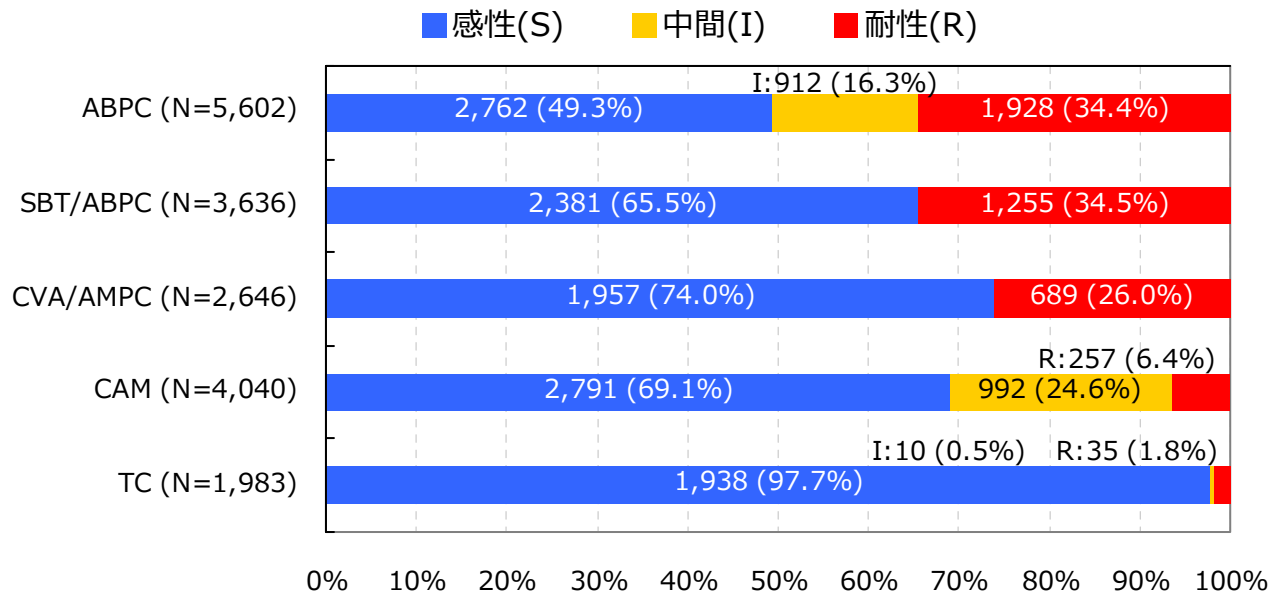
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Haemophilus influenzae* †



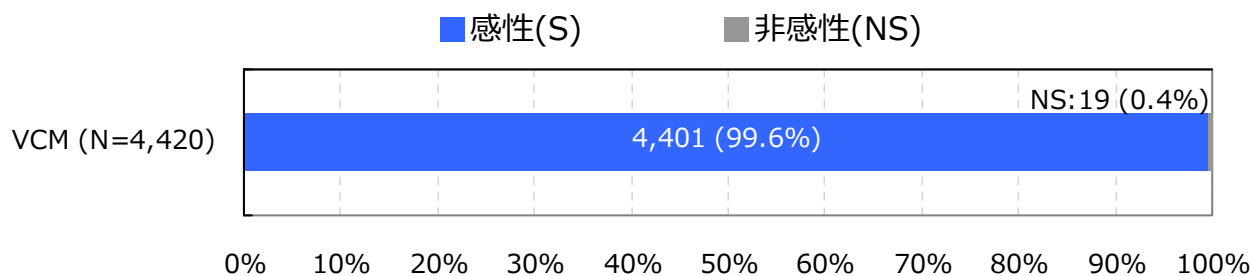
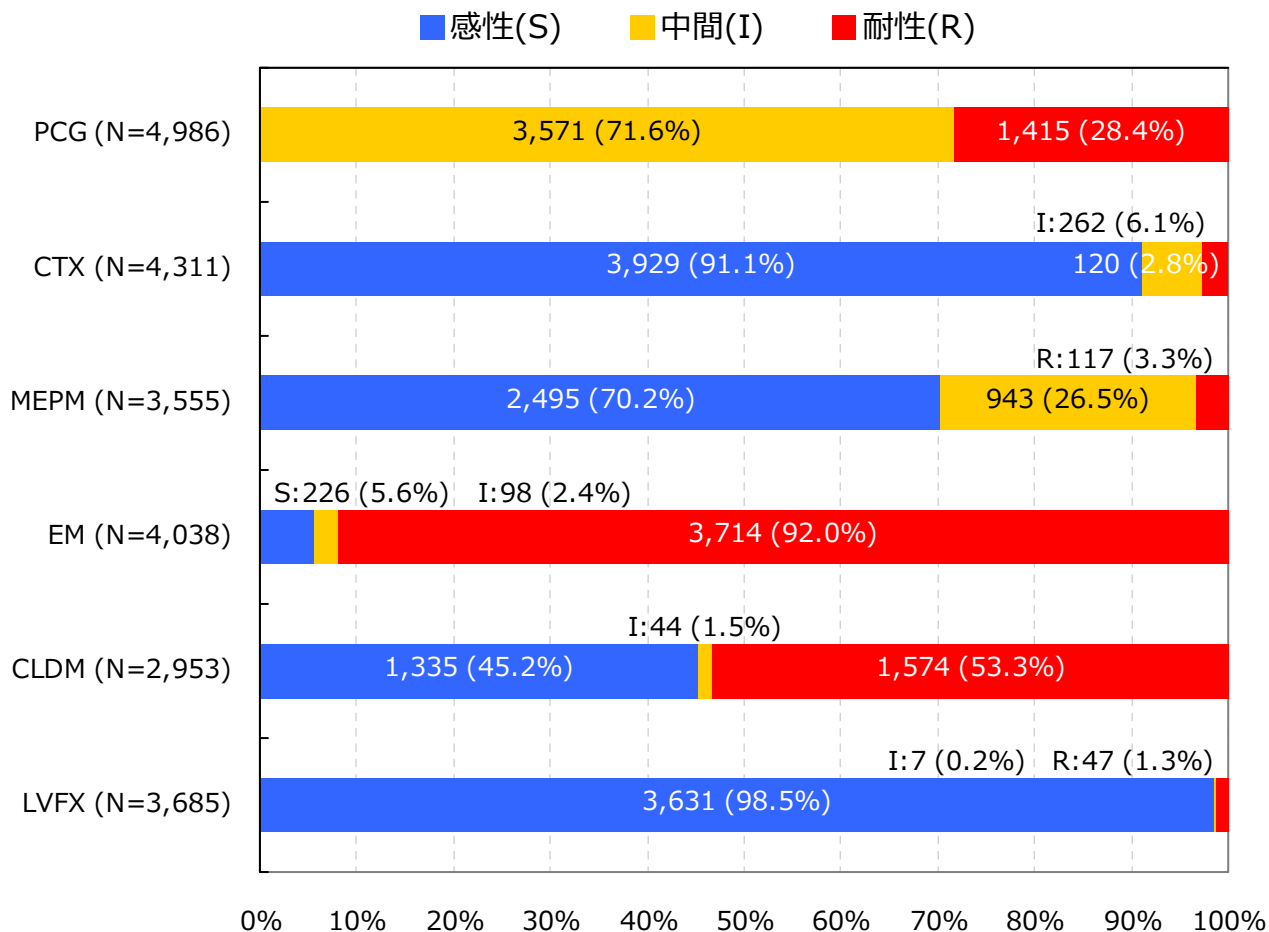
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP)外来患者対象†



外来検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

†菌名コード: 1131と報告され抗菌薬コード: 1201 (ベンジルペニシリン) の感受性結果「I」「I or R」「R」の菌